

ゆたか俱楽部 よもやま話

vol. 8

クルーズご意見番“初代クルーズマスター 松浦睦夫”が語る

1988年（昭和63年）に外国船の「ソブリン・オブ・ザ・シーズ（現・ソブリン）」が就航しました。ソブリンとは帝王と言う意味で、客船大型化競争の先駆けとなつた船です。デビュークルーズの日本での取扱いは2社のみで、その一つがゆたか俱楽部でした。クルーズは通常の旅行よりも取消料（キャンセルチャージ）が早く発生するため、旅行会社のリスクが大きかつた時代ですが、この頃から日本発のフライ&クルーズツアーガ作られるようになりました。1990年（平成2年）就航の「クリスタル・ハーモニー（現・飛鳥II）」なども人気でした。

これまでカリブ海の客船は、5月中旬になるとパナマ運河を通りてアラスカに行き、夏のアラスカクルーズの後、9月中旬になるとまたパナマ運河を通りてカリブ海に戻る、またはもう少し早い時期に戻つてカナダのセントローレンス湾まで回るというのが定番でした。なので、10万トン級客船「カーニバル・ディステイニー（現・カーニバル・サンシャイン）」が就航しました。カリブ海での処女航海に、ゆたか俱楽部のお客様180名様がご参加。日本からの送客数は弊社が一番で、私も添乗しました。「カーニバル・ディステイニー」は、パナマ運河を通航できない、最初の客船です。全長272.4メートル、全幅35.5メートル、喫水8.3メートル、最大高63メートル。ち

なみに、パナマ運河を通過できる船の最大のサイズは「パナマックス」と呼ばれ、全長294.1メートル、全幅32.3メートル、喫水12メートル、最大高57.91メートル以下に制限されていました。現在は、拡張工事や第二パナマ運河の開通で、通過可能船舶の範囲が大幅に拡大しています。

それまでのカリブ海の客船は、5月中旬になるとパナマ運河を通りてアラスカに行き、夏のアラスカクルーズの後、9月中旬になるとまたパナマ運河を通りてカリブ海に戻る、またはもう少し早い時期に戻つてカナダのセントローレンス湾まで回るというのが定番でした。なので、10万トン級客船「カーニバル・ディステイニー（現・カーニバル・サンシャイン）」が就航しました。カリブ海での処女航海に、ゆたか俱楽部のお客様180名様がご参加。日本からの送客数は弊社が一番で、私も添乗しました。「カーニバル・ディステイニー」は、パナマ運河を通航できない、最初の客船です。全長272.4メートル、全幅35.5メートル、喫水8.3メートル、最大高63メートル。ち

なみに、パナマ運河を通過できる船の最大のサイズは「パナマックス」と呼ばれ、全長294.1メートル、全幅32.3メートル超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズで、船上の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。「カーニバル・ディステイニー」就航から3年経ち、港にも広いチェックインスペースが設けられ、スタッフも大型船に慣れたのだと思います。当時は毎年のように史上最大客船が誕生し、その記録が塗り替えていた時代でした。大きな船のいいところは、ショーのスケールが大きいことです。舞台を大きくできるので、それだけ本格的なショーを楽しむことができます。

現在は、半年経てば「史上最大」が登場し、お客様もいろいろ乗り比べいらっしゃいます。大きい船はサービスが多いとは限りません。どちらかと言いますと大衆向けで、船代もリーズナブルな料金になりました。また、何でも時間がかかりますので、お客様も覚悟が必要です。日本船のようなきめ細やかなサービスは受けられません。日本人に向いているのは1万から5万トンクラスと私は考えています。

くになりました。10万トン超クラスの船が増え、日本からのお客様も増えるにつれ、ホテルでの対応がスペース的に難しくなったのかもしれません。就航2年半で日本から約5000人が乗船しました。

1999年（平成11年）には、当時史上最大客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の処女航海の添乗をしました。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。

上最大客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の処女航海の添乗をしました。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。

カリブ海クルーズはマイアミからの乗船ですが、日本からマイアミへの直行便がないので、前後泊が必要になり、そのためホテル代や日数が上乗せされます。10ほど前に日本の大手旅行会社が年末年始に往復マイアミ直行のチャータ便でのフライ&クルーズを実施しましたが、かなりの高額になつてきました。直行便でマイアミに入れるようになつたら、7泊8日で前後泊なしで15万円くらいのフライ&クルーズができると思う

ています。現在の「ソブリン・オブ・ザ・シーズ」はブルマントウールクルーズ社に移籍し「ソブリン」となっています。何度も改装し、さすがに古さを感じますが、それでも現役を続いているおかげで、金額的にも手ごろな3泊4日のショートクルーズが増え、客層も広がりました。

日本のクルーズ略史（外国船の巨大化）

| | |
|-------|---|
| 1988年 | 「ソブリン・オブ・ザ・シーズ」（7万352トン）就航。デビュークルーズの募集はゆたか俱楽部とともに1社のみだった。 |
| 1995年 | 「クリスタル・シンフォニー」（5万7441トン）就航 |
| 1996年 | 史上最大客船「サン・プリンセス」（7万441トン）就航 |
| 1998年 | 史上最大客船「カーニバル・ディステイニー」（10万8881トン）就航 |

1999年
史上最大客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」（13万7276トン）就航

1999年（平成11年）には、当時史上最大客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の処女航海の添乗をしました。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。

上最大客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の処女航海の添乗をしました。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。

上最大客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の処女航海の添乗をしました。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。

上最大客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の処女航海の添乗をしました。13万トン超の同船の乗客数は3800人と、すごい数ですが乗船はとてもスムーズでした。